



日本赤十字社

川西赤十字病院ニュース

〒384-2292(病院個別番号) 長野県佐久市望月318
TEL.0267-53-3011代 FAX.0267-53-5901
<http://kawanishi.jrc.or.jp>
kawanishi-med-jrc@shore.ocn.ne.jp

■発行者：川西赤十字病院
■院長：大和眞史
■印刷所：立科印刷

令和2年、年初のご挨拶

病院長 大和眞史

新春のお慶びを申し上げます。皆さんはどのような元旦を迎えたか？ 信心厚く2年参り、TVで紅白を見て「ゆく年くる年」という定番、皆で騒いでHappy New Year!!という方も、新年色々でしょう。病院は24時間365日ですから、いつもの休日と同じで勤務だという方も大勢いらっしゃるでしょう。ご苦労様でした。

旧年中の病院10大ニュースを私なりに考えると、1) 春は3年ぶりに経常赤字決算。2) 院長・看護部長・事務部長3役交代。3) CT装置入れ替え。4) 常勤医5名体制に。5) 平成25年からの全国赤十字からの応援医師返上。6) 『再検証要請』された公立・公的424病院の病院名公表。7) 台風19号災害に救護班・心のケアチーム派遣。8) 地域包括ケア病床30床に増床。9) 完全週休2日制移行(眼科外来を残して)。10) タイムレコーダ導入。

個人的には、これに佐久総合病院・伊澤統括院長講演(5月30日)や摂食嚥下チームによる嚥下造影開始、佐久市・小諸北佐久の両歯科医師会による口腔ケアの導入、川西地区連携医の集いで6診療所の先生たちと天船で宴を開催などが加わるでしょう。米倉副院長と2人常勤で、25人まで入院を受け持つて川西地区の病院医療ニーズを実感していた7月末に久米典彦Drから10月には戻りますよと、そして8月に宮島素子Drの着任が決まり、同じころ静岡日赤の磯部院長から近藤泰之Dr割愛の提案が舞い込み、年度前半の『医師確保』という最大の目標が果たされたことがうれしさ一番でした。

全国赤十字からの医師派遣事業は、平成25年4月から2年間を名古屋第2日赤、その後の5か年を通じて全国15病院から延べ33病院・118名の医師派遣をいただき、当院の診療を継続することができました。赤十字の総力を挙げた支援であり、貴重な戦力を割いて派遣に応じていただいた各日赤病院に感謝し、また来ていただいた医師たちに改めてお礼申し上げる次第です。私は着任後4月から9月まで長野・諏訪・福岡・那須・長崎原爆・和歌山からの医師たちと出会い、これは貴重な経験でした。時に食事をご一緒していろいろなお話をうかがい、またその専門領域のコンサルトに応じていただきました。長崎の藤田成裕部長には神祭りの盆踊り連に参加して頂き、和歌山の小林謙一郎先生には感染症講義や院内感染マニュアル更新にもご尽力いただいたことなど良い思い出です。

さて新しい年はどのような年になるでしょう？ 病院は川西地区唯一の病院として地域包括ケアの拠点として機能を明確化し、専門性ある人材確保養成、多職種チーム形成、設備の充実、地域連携の促進などに努めねばなりません。そのために、「在宅療養支援病院」の各要件の充足、認知症ケアチーム活性化、摂食嚥下と口腔ケアの推進、救急医療充実により不応需減少、病院機能評価や電子カルテ導入の検討や取組が課題となるでしょう。

川西地区になくてはならない病院として1931年(昭和6年)本牧村など10か村が協力して川西連合組合病院創設、1948年(昭和23年)に日本赤十字社に移管されて、今日に至ります。こうした先輩たちの努力の継続を未来につなげ、持続可能な病院事業として次世代に継続していくよう、近い将来の病院の建て替え計画も含めて、未来志向で行きたいと考えています。今年もよろしく！

嚥下造影検査について

本年11月より、嚥下造影検査を実施できる設備・体制が整いました。これまで、食べ物を飲み込む際の音や飲み込み前後の声での判断と気管吸引などで食物が概ねどこに残ってしまっているのかや誤嚥してしまっているのかを判断しておりました。しかし、この検査ではエックス線を用いて食物の飲み込みの様子を観察ができ、飲み込み時の食物の通過の状態、喉への残留の有無、誤嚥（ごえん）の有無を可視化して確認することができるようになりました。



食べ物を口の中へ入れて、咀嚼（そしゃく）し、飲み込み、食道へ送り込む一連の動作のいずれかに障害がある状態を嚥下（えんげ）障害といいます。障害の存在により、口から食べる事が難しくなる事で全身に様々な影響がみられます。例えば、食物が気管へ入ってしまったことから肺炎を起こします。治療期間中の活動性が低下し、動かなくなる事で筋力低下に繋がり廃用症候群に至り飲み込む力も同様にさらに落ちてしまい誤嚥を繰り返す状態になってしまいます。

この検査の目的は大きく2点に分けられます。まず1点目は、症状と病態を明らかにする「診断のための検査」です。形態的な異常、機能的異常、誤嚥、残留などを明らかにする事。2点目は、食物・体位・摂食方法などの調節により治療に反映させる「治療のための検査」です。食物や体位、摂食方法などを調整することで安全に飲み込む事ができ、誤嚥や咽頭残留を減少させる方法を探します。実際の訓練や摂食場面において用いる事ができ有力な情報源となります。この検査の結果をふまえて、今後の食事形態や食事時の姿勢の調節、嚥下訓練の適応、方針を決定します。これにより、口から栄養を安全にとることを継続することにつなぎます。また、経管栄養（チューブからの流動食）から少しづつ口から食事を取る練習を始める可否の検査としても有用です。



検査の実際は、レントゲンによる透視下で造影剤を混ぜた、紅茶、とろみの付いた紅茶、ゼリー、または実際のお食事の一部を食べていただきます。口の中で食物の塊を形成する過程や、どのように飲み込むかなどがリアルタイムで観察できます。観察しているものは、ビデオ記録装置により記録し検査結果の検証を行います。結果については、提携している諫訪赤十字病院の医師が的確な読影をしていただきアドバイスやその後の方針決定等に活用しています。

検査に要する時間は、おおむね30分前後です。現在は、入院患者様のみを対象に実施しております。ご家族様などで入院しており食べる事が気になる方は、一度主治医の先生にお声がけいただければと思います。

元気でいるためには、バランスの良い栄養（食事）と適度な運動が必要です。

中学生職場体験

10月は立科中学校・浅科中学校より、2年生は職場体験に、3年生は福祉体験で計3回にわたり、来院してくれました。中学生の職場体験ではスーパーや飲食店などのサービス業や図書館や幼稚園等、様々な選択肢があるようです。その中で病院を選んだきっかけを問うと、医療関係職種につく家族がいたり、自分が入院したことがあるなどの理由を話してくれました。興味を持って選んできてくれたことは、受けいれる側にとってはとても嬉しいことです。「医療現場の実際の様子と魅力を上手に伝えてあげたい」とこちらも少し緊張して案内を担当しました。

体験の流れを紹介します。初日のはじめには院長先生や看護部長より、地域での当院の役割や日本赤十字社の理念についてお話を聞いてもらいました。しっかりと集中して耳を傾けている中学生の姿に将来が頼もしく感じました。その後は病棟でシーツ交換や中学生同士でお互いの血圧を測ったり、車椅子の体験をしてもらいながら現場の説明です。そしてすこし緊張がゆるんできたところで実際に患者さんとのレクリエーションに参加してもらったり食事の場に同席してもらい当院に多い高齢の患者さんとの交流をはかりました。現代は核家族化により若い世代は祖父母との同居も少なく、高齢者との関わりの機会が少ないといわれます。体験にきてくれた中学生もはじめは緊張の表情でした。でも話をしていくうちに、だんだん笑顔をみせてくれ、患者さんの良い表情もひきだしてくれていました。風船バレーでは認知症や手の力の弱っている患者さんにそっとお手伝いしてくれる様子もあり優しさを感じました。

病院には検査科・放射線科・リハビリテーション科・薬剤部・栄養科などの部署があります。各科の見学にまわり説明をうけました。薬剤部での薬を分包する機械はとても面白かったとの感想をもらいました。また10月29日は当院の災害訓練の日でもありました。望月高校の生徒も参加する中で消防署の職員による火事の現場の想定での煙体験にも参加してもらいました。

今回の体験が将来の職業選択に少しでも役立つと嬉しく思います。そして子どもたちの未来がより多く明るく輝いて、医療の現場で活躍してくれる事を期待します！

お
知
ら
せ

川西赤十字病院ホームページリニューアル

当院のホームページを令和元年12月20日にリニューアルしました。

新しいホームページは、すべての利用者にとって操作性のよい、わかりやすいデザインとなっています。

ホームページのアドレスは、<https://kawanishi.jrc.or.jp/>



QRコード

令和元年台風19号による活動報告



令和元年10月12日（土）に長野県へ上陸した台風19号により、長野市及び須坂市周辺で甚大な災害が発生しました。特に千曲川流域においては、河川が氾濫した影響により、人・住居ともに大きな被害を受け、県内では約1,000人の避難者が発生し、各地の避難所で避難生活を余儀なくされるという状況にありました。

当院救護班は、発災より約2週間後の10月30日（水）～11月1日（金）の期間に長野市および須坂市へ派遣され、主に豊野・南長野等の避難所にて救護活動を行いましたので本稿での活動内容を報告します。

日本赤十字社の活動というと、多くの方は、「病院」や「献血」を思い浮かべる方が多いかと思いますが、災害時に医療救護班を派遣する、「国内災害救護」も日本赤十字社の根幹を成す大事な事業のひとつです。日赤の医療救護班は、各日赤病院に最低でも常時2班以上が組織されており、定期的に訓練や資材の更新を行い、有事の際は迅速に展開できるよう日々準備をおこなっています。もし災害が発生し、日赤救護班が派遣されると、現地ではトリアージや診察、巡回診療を主とした「医療救護」と被災者のストレスや精神的ダメージの軽減を図る「こころのケア」活動を行います。これらの活動を滞りなく実施するため、救護班員は原則として、医師1名、看護師3名、主事（業務調整員）2

名の計6名で構成され、場合によっては、薬剤師や放射線技師が帯同し活動することもあります。なお、リーダーは医師が努め、現場でのチームの行動判断を行います。

台風19号にかかる災害派遣においても、当院救護班も原則に倣い、医師1名、看護師3名、主事2名の計6名で、10月30日（水）～11月1日（金）の期間に長野市および須坂市へ派遣され、主に豊野・南長野等の避難所にて救護およびこころのケア活動を行いました。

我々が現地に入った時点で、発災よりすでに2週間が経過しており、町はある程度落ち着いた様子でしたが、千曲川が氾濫した際に現地を襲った泥流は白く乾燥し、町の中はさながら砂漠のように砂だらけといった状態になりました。風が吹けば砂やホコリが舞い、マスクやゴーグルをしていないと活動が難しい厳しい環境の下、多くの避難者の方々が屋外で自宅の片づけに追われているのが印象的でした。

派遣期間中、我々は日赤災害対策本部より派遣指示のあった避難所をひとつひとつ周り、巡回診療・こころのケア活動を実施しました。訪問した中でも特に厳しい印象を受けたのが200名を超える避難者が集団生活を行っていた豊野西小学校体育館でした。個人のスペースが一畳のダンボールベッドのうえ、隣同士のしきりも50cmほどの高さのダンボールのみというスト



る災害救護に参加して

総務課 主事 梅澤達也

レスのたまりやすい環境であり、また、体育館という換気し辛い環境のため、インフルエンザ等感染症リスクが高い状況にありました。さらに、小学校は既に再開し、校舎では小学生が学校生活を送っているため、体育館・小学校のどちらかでインフルエンザが発生しても、爆発的に流行する危険性があるように感じました。

実際、豊野西小学校体育館の避難者の方々に話を聞いたところ、「避難生活の疲れ」や、「運動不足による体重増加」「その後の生活や将来」に不安をかかえている方が多くいらっしゃいました。また、配給される食事は、どうしても生野菜が少なく、揚げ物中心となるため、便秘の方も多くみられました。このように避難所では医療ニーズとこころのケアニーズが混在していたため、我々は巡回診療チーム（医師1名、看護師1名、主事1名）とこころのケアチーム（看護師2名、主事1名）の2チームに別れて3日間活動を行いました。やはり避難者の方々は、医療的にもメンタル的にも様々な問題を抱えており、我々も難しいケースに直面しましたが、チームで協力し解決の糸口を見つけ、うまく対処できたように思います。

災害は発生しないに越したことはありませんが、台風19号災害派遣においては、当院救護班にとって大変貴重な経験となりました。もちろん救護班員としてもそうですが、普段の院内業務にも繋がるような経験を積むことができました。どのような災害がいつ発生しても対応できるように、ここで得た経験を救護活動や院内業務に活かしていきたいと思います。



◆◆総合ビルメンテナンス◆◆



株式会社 **BISO**

本社／〒399-4432 長野県伊那市東春近549-3
TEL.0265-76-6100(代) FAX.0265-76-2340

営業所／諏訪・茅野 飯田 松本 長野

元気な毎日を応援します

もちづき薬局

佐久市望月343-1
川西赤十字病院前
Tel:0267-53-8110
Fax:0267-53-8111



総合防災訓練（消火訓練・避難訓練）の実施について

病院では、消火訓練及び避難訓練の実施を年2回義務付けられております。

その中で、今回は、1回目の総合防災訓練を、令和元年10月29日に実施をしました。

訓練内容は、「初期消火訓練」と「入院患者さんの搬送訓練」です。

初期消火訓練は、川西消防署で用意した水が出る消火器を使用して、職員が火点に向けて、消防署職員の指導のもとに消火訓練を実施しました。これは、初期消火を迅速に行えるかの訓練です。

入院患者さんの搬送訓練では、まず、昼間・夜間の想定をします。今回は、職員が手薄となる「夜間想定」とし、患者役は、職員が交代で行いました。

今回の搬送訓練については、川西消防署と打ち合わせを行い、火災時には、煙が部屋に充満してしまうと、どうなるのか、また、どのように患者さんを搬送するのか、職員もイメージがわかないと考え、初の試みとなる「煙の中」での搬送訓練を計画しました。

まず、部屋に機械で、煙（水蒸気）をまき、煙のある部屋をつくりその中で、患者役の職員を救助し、シーツ、毛布、担架などをそれぞれ使い、すばやく部屋の外に患者役を搬送しました。しかし、煙があると視界が悪く、煙を吸い込んだり、また、態勢が自然に低くなり、搬送する職員も非常に大変であるということが分かりました。

この経験をもとに、患者さんの避難誘導及び安全確保等に向けた、訓練を職員一同さらにかさねていきたいと思います。



【部屋に煙をまいた状態】

今後は、避難訓練を計画するに当たり、消防署、病院の周辺の事業所及び地域の皆さんと、連携をした避難訓練を計画できればと考えています。

最後に、今回の避難訓練の参加者の中には、当日、立科中学校の職場体験の生徒さんや望月高等学校の生徒さんにも参加をいただき、訓練を体験していただきました。ご苦労様でした。



【煙をまいた後の搬送訓練】



【階段からの搬送訓練】

ノロウイルス感染症

潜伏期間は24～48時間です。
症 状

「吐き気・おう吐・下痢・腹痛」

ノロウイルス感染症は、急性胃腸炎を引き起こす、ウイルス性の感染症です。長期免疫が成立しないため何度もかかります。

主に冬場に多発し、11月ごろから流行がはじまり12～2月にピークを迎えますが、年間を通して発生します。

原因ウイルスであるノロウイルスの増殖は人の腸管内のみですが、乾燥や熱にも強いうえに自然環境下でも長期間生存が可能です。感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染・発症します。

感染経路



- ① カキなどの貝を生で、あるいは十分に加熱調理しないで食べて感染する。
- ② 家庭内で看病することでヒトからヒトへ直接感染する。
- ③ ノロウイルス患者のおう吐物や糞便など汚れた環境表面（食器や衣類、トイレ等）に触れ、手を介して感染する。
- ④ 感染者のおう吐物や糞便が飛び散り、それを吸い込んで感染する。
- ⑤ おう吐物の処理が不完全であり、それが乾燥し空中に舞い上がったものを吸い込んで感染する。

① とにかく手洗いを
② 食事の前等、石けんと大量の水で洗い流してください。
③ 飲食店や食品販売に従事され



予防対策

★かかつたかな？と思つたら★
何はなくとも「医療機関」に相談しましよう。



※ノロと診断されましたら、おう吐は突然、強烈に起ることが多いです。



けんと大量の水で洗い流してください。
② 食品はしつかり加熱

食事はなるべく火を通したものをお年寄りや子供、大人であつても体調の悪い人が、生や不完全な加熱状態で食べると感染の危険性が高まります。

③ 煩雑に手に触れるものは消毒する

ドアノブ、手すり、椅子、トイレなどが直接手で頻繁に触れる場所は0.02%に希釀した次亜塩素酸ナトリウム溶液（ハイターの場合…水500mL、ハイター10mL）を浸した布またはキッチンペーパーで拭き、その後に水拭きします。消毒に使用した布は消毒液には戻さないよう気をつけてください。食器も良くなっただ後、この溶液に10分以上浸けてください。

消毒剤の注意

次亜塩素酸ナトリウムは刺激性があり、漂白作用や腐食性もあります。取り扱には十分注意してください。手指など人体に、色が落ちると予想されるもの、錆びては困る金属製品には絶対に使用しないでください。詳細な取り扱い方は医療機関や保健所にご相談ください。

1回目

接遇自己チェックリストの実施結果について

患者サービス委員会

職員一人ひとりの更なる接遇マナーの向上を目的として、患者サービス委員会では、年2回、全職員を対象に接遇自己チェックリストを実施しています。この度、1回目の実施を行ないましたので、ご報告いたします。

接遇自己チェックリストは「言葉遣い・態度・身だしなみ」の3つの項目について、5段階（A 常にできている、B 時々できている、C あまりできていない、D ほとんどできていない、E まったくできていない）のいずれかでチェックを行ないます。

今回のチェックリストでは、全職員85名中82名の回答でした。「言葉遣い」では7項目中、常に・時々できている（以下「できている」）割合が平均で80%の割合でした。昨年度実施した2回目の実施状況（前回）と比べると17%

増加しました。特に「敬語・名前を入れる」の割合が増加した事が要因と考えられます。

「態度」では10項目中、できている割合が平均で79%の割合でした。前回と比べると6%増加しました。特に「目を見る・触れる時・職員同士」の割合が増加した事が要因と考えられます。

「身だしなみ」については、7項目中できている割合が93%の割合で、前回より6%減りました。主に「アクセサリー・足元」が減少した事が要因でした。

前回に比べ、できている割合が多い結果となりました。今年度中に2回目の自己チェックを予定しております。1回目以上にできている割合が増えるよう、また、更に接遇の向上ができるよう、まい進して参ります。

人事往来

～採用～



当院の新戦力を
よろしくお願いします

- ①氏名 ②出身地 ③職種・所属 ④採用年月日 ⑤趣味
 ⑥現在の職業・職種になったきっかけ ⑦今後の抱負



- ①近藤 泰之
 ②静岡県
 ③医師・内科副部長
 ④令和元年10月1日
 ⑤音楽鑑賞
 ⑥実家が病院で医師の父に憧
 れたため。
 ⑦現在、睡眠時無呼吸症候群
 に熱心に取り組んでいます。
 不安のある方は、是非、私
 の外来を受診してみてくだ
 さい。



- ①花岡 薫
 ②東御市(旧北御牧村)
 ③看護師・浅科・望月地域包
 括支援センター
 ④令和元年9月24日
 ⑤音楽鑑賞、旅行、ドライブ、
 猫を飼うこと。
 ⑥昔、祖母が脳出血で倒れ、
 自宅療養していたこと。
 ⑦いくつになっても誰もが済
 易い地域で生活できるよ
 うに、自分らしく仕事を続
 けたいと思います。

外来医師担当表

		月	火	水	木	金	土
内科 (循環器科)	午前 8:30~11:30	田村 泰夫 稗田 宏子	米倉 宏明 稗田 宏子	田村 泰夫 宮島 素子	米倉 宏明 信州大学 (9:00~11:30)	近藤 泰之 久米 典彦	休 診
	午後 14:30~16:00			米倉 宏明	大和 真史		
外科 (消化器科)	午前 9:00~11:30	清水 公男	清水 公男 第3週休診	休 診	検 査	佐久総合 (月1回)	休 診
整形外科 (リウマチ科) (リハビリ科)	午前 8:30~11:30	大内 悅雄	こもろ 医療センター 9:00~	大内 悅雄	塩澤 律 9:30~	大内 悅雄	休 診
眼科	午前 9:00~11:30						第1・第3 長野日赤
泌尿器科	午後 14:00~16:00		毎月第1金曜日のみです			佐久医療 センター ★予約制★	

■受付時間（全科） 午前7:00~11:30（初診患者受付は8:30より開始）

■水曜・木曜日内科午後診は14:30~16:00まで

■曜日により診療開始時間が下記の時間帯になります。

- ・整形外科（火）9:00~（木曜日）9:30~
- ・眼科（第1・第3土曜日）9:00~
- ・泌尿器科（毎月第1金曜日）14:00~

★毎月1回、子宮頸がん検診を実施しています。

ご希望の方は当院医事課までお問い合わせください。

※担当医師は、曜日によって他の医師へ代診となることがあります。

その場合は、院内に掲示いたします。